

環境印刷ブランド・バタフライマーク

オオカバマダラ Monarch Butterfly

北米からメキシコ海まで南下
世代を超えて渡る蝶

日本WPAの活動



バタフライロゴ

一般社団法人日本WPA（日本水なし印刷協会）のロゴマーク「バタフライ・オオカバマダラ」が環境対応印刷のシンボルとして活躍している。滋賀県のアイズは配送車にバタフライマークを大きく表示。山形県の精英堂印刷は日本と世界のラベルコンテストで最高賞を含む高位の賞を獲得している。持続的な環境対応が求められる中で日本WPAはバタフライマーク活用を環境印刷を象徴するブランドとして推進している。

バタフライマークのオオカバマダラ

バタフライロゴの蝶「オオカバマダラ（Monarch Butterfly）は世代を超えて北米から南米まで渡る蝶として蝶マニアの間で知られる。カナダの国虫で、米国のミネソタ州ほか数州の州蝶にもなっている。

この蝶は北米の東側半分に分布し、夏の間は、カナダ中部付近で生息している。秋になると北米から3,800kmも離れたメキシコまで南下して集団で冬を越し、春になると分散し、世代を繰り返しながら北上するという生活をしている。環境のリトマス試験紙とまでいわれるほど、環境に非常に敏感なため、公害や開発の影響で、エサとなる樹木が無くなり、その生息域も年々少なくなっている。環境を象徴するシンボルとして世界中から愛されている。



滋賀県・アイズのバタフライマークの配送車

滋賀・アイズ 配送車にバタフライ号

滋賀県のアイズ(株)（大森七幸社長、滋賀県蒲生郡竜王町）で4月28日から配送車に環境保全「水なし印刷」とランチ本「ランパス」をPRするトラックが運行している。

同社は廃液を出さない印刷方法「水なし印刷」で地球環境保全を訴求している。新しく導入した



バタフライマークのシール

配送用トラックはラッピングしてバタフライマークの水なし印刷をPRをしている。片面には、滋賀で売られているランチ本「ランチパスポート滋賀(500円でランチが食べられる本)」を同時にPRしている。

官公省や一般消費者でグリーン購入の意識が高まる中で同社は環境印刷をアピール。環境にやさしい水なし印刷、VOCゼロインキ、大豆油インキ、ベジタブルオイルインキ、FSC森林認証紙・再生紙・非木材紙を組み合わせ環境にやさしい印刷を提案している。

配送用トラックは「環境にやさしい印刷」と「ワンコインで食べられる超お得なランチ本」のPRを載せて京阪神地区を走っている。

WPA会員にバタフライマークのシール配布

水なし印刷のロゴであるバタフライマークの認知度向上を目指し、水なし印刷でバタフライマークのシールを制作しWPA会員に配布した。

水なし印刷の印刷物を小口梱包する場合や段ボールやシュリンク包装で出荷する際に外面に張り付けるためのシール。印刷物を受け取り、開梱する際には自然と目につくように使われることを想定している。



水なし印刷が多いフランスワインのラベル

シールやラベル印刷はパッケージと同じく商品の顔となる場合が多い。にじみの少ない、色再現性の良い水なし印刷はワインの本場のフランスやオーストラリアでも水なし印刷のラベルが大半を占めている。

精英堂印刷(株) (山形県米沢市) は、水なし印刷のラベルで世界のラベルコンテストで最高賞を含む高位の賞を連続して獲得しており、品質の高さに定評がある。

なお、バタフライマークのシールは日本WPAの会員企業の「株式会社ヨネヤマシール印刷 (新潟県三条市: 米山智哉社長) で制作された。

日本においてはシール (seal) とラベル (label) は、印刷の観点からは同一物で、使用目的に若干の差がある。更にステッカー (sticker) もあり、印刷的では同一物と言える。日本語では、ステッカーは、物に張り付けて遊びに使う際に使われる用語であるが、英語では、日本語のシールもstickerとなる。一方、英語の「seal」は、ある団体や人物が発行し、品質や製品を保証などの意味合いがあり、公的なニュアンスがある。本来のsealは「密閉する、封をする行為」の意味であり、昔はワックスを垂らして上から刻印することが行われていた。契約書の割り印は、中身を保証する意味があり、本来の「seal」の使い方に近いと言える。

今回のバタフライマークのシールは、水なし印刷で、「中身 (品質) を保証する」という本来の意味合いが含まれている。